



大江中新聞

友愛 錬磨 探求

やまなみ

令和8年9月18日

第178号

大江町立大江中学校

全国学力・学習状況調査

結果報告と今後の取り組みについて

4月22日・23日に中学3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。分析結果をまとめましたので、ご報告いたします。また、調査を受けた生徒のみなさんには個人票を配布いたします。

この調査は、他者との比較や序列化ではなく、「本校の指導改善」と「お子様のこれまでの学習の成果と課題を確認すること」が目的です。点数のみに捉われず、今後の学習のヒントとしてご活用ください。

★ 学力調査の結果

教科名	正答率（英語のみ平均 IRT スコア）		本校の状況
	山形県	全国	
国語	63	63.9	全国・県平均を大きく上回る
数学	54	57.0	全国・県平均を上回る
英語	47.6	49.9	県平均を上回る

教科	本校の強み（成果）	今後の課題
国語	単語の種別・活用 情報活用力 様々な立場や考えを尊重しながら、考えをまとめることができる。	文脈上の語句の意味を捉える 助言を踏まえ、よい点、改善点を見出すことができる。
数学	同類項の意味を理解している。 データの活用	具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見出すことができる。 筋道を立てて証明することができる。
英語	必要な情報を聞き取る。 必要な情報を読み取る。	日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができる。 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる。

☆今後の手立て

- 調査から見てきた良さを伸ばすために、授業の中で、学校研究の重点「きく」「つなぐ」「もどす」場面づくりを行い、授業の活性化を図る。
 - 高い情報活用力、データ活用力を活かし、生徒同士で疑問を「きき合い」、考えを多面的に「つなぐ」対話を活性化させ、学習内容の理解を深めていく。
 - 少し難しい課題を1時間の授業の中に設定し、既習事項に「もどり」ながら、思考力・判断力を高める。

2 調査から見えた課題を改善するために、つきたい力、資質・能力を明らかにし、指導する。

〈つきたい力、資質・能力〉

【知識及び技能】 学んだことの定着、知識・技能を活用する力

【思考力・判断力・表現力】 きく（きき合う）力（きいて理解する力）、伝える力（自分の考えを表現する力）

【学びに向かう力・人間性】 能動的に粘り強く学ぶ力

これらの力をつけるために、単元の中で、以下の場面を設定する。

- ・目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にして伝える。
- ・自分の考えを分かりやすく伝えたり、目的に応じて材料を整理して表現したりする。
- ・他者の考えと結び付けて自分の考えを深める力や、既習事項を一般的な事象の解決に結びつける。

★学習状況調査の結果

生徒質問紙	本校の強み（成果）	今後の課題
基本的な生活習慣	朝食を毎日食べている。 毎日、同じくらいの時刻に起きている。	毎日、同じくらいの時刻に寝ている。
自尊感情や自己有用感	人の役に立つ人間になりたい。 普段の生活の中で、幸せな気持ちになる。	自分には良いところがある。 将来の夢や目標を持っている。
他者との関わり	人が困っている時は、進んで助けている。 いじめはどんなことがあってもいけないことだ。 自分と違う意見について考えるのは楽しい。 地域や社会を良くするために何かしてみたい。	友達関係に満足している。
先生との関わり	先生は良いところを認めてくれる。 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて分かるまで教えてくれる。 困りごとがある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。	
学習習慣 学習環境	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる。 新聞を週1回以上読んでいる。	平日、授業以外で勉強のためにPC、タブレットなどのICT機器を1時間以上使う。 休日に、2時間以上勉強する。
教科について	（今回調査した教科の）授業はよくわかる。	授業で学習したことが将来役に立つと思う。

今回の調査では、本校の（強み）がたくさんあることが明らかになりました。基本的な生活習慣がしっかり身につけているのは、ご家庭の生活が安定しているということです。また、自尊感情や自己肯定感、他者との関わりでも良い面がたくさんありました。前向きに、そして「やさしさ」を持って生活している様子が伺えます。大江中の育成を目指す資質・能力の一つである「やさしさを力にすることができる生徒を育てる」が体现できているということだと思います。また、先生との関わり、学習習慣・学習環境においても肯定的な回答が多かったことも嬉しい結果でした。

しかしながら、課題もあります。「毎日同じ時刻に寝ている」という項目は、学校で行った生活リズムアンケートでも課題であるという結果でした。就寝時間が遅くなると、学習や生活に大きな影響があります。学習面においては、記憶の定着率の低下、集中力・注意力の欠如、論理的思考・感情コントロールの低下につながります。生活面では、自律神経とホルモンバランスの乱れ、メンタルヘルスの悪化、体内時計のずれによる倦怠感などの影響があります。就寝時間を固定し、十分な睡眠時間を確保することは、学習効率を高めるための最も効果的な「事前準備」と言えます。生活リズムアンケートにも就寝時間が遅い生徒の回答の中に「頭がボーっとしている」と記述がありました。生活リズムを整えることが大切になります。

また、「自分には良いところがある」「将来の夢や目標を持っている」という生徒があまり多くないという結果に驚きました。普段の生活を見ている限り、前向きに生活していると感じ、周りの人に配慮して生活している姿があるからです。自分に対する評価が厳しすぎるのか、目指す姿が高いのか、いろいろな要因が考えられますが、まずは、「自分を丸ごと受け入れる」ことが大切です。そのうえで、「ポジティブに自分を評価する」習慣を身につけてほしいと思います。「スモールステップで目標を立て、達成していく」「達成できた（成功体験）ことを振り返り、自分の成長を評価する」といったことを積み重ねていくことで、自分に自信を持つことができます。自分に自信が持てると、困難な状況にも前向きに取り組むことができ、さらに自分を成長させることができるはずです。そうなれば、自分の将来にも自ずと向き合うことができ、将来の夢や目標が持てるようになると思います。家族のみなさんからのポジティブな声かけや話を聞いてもらうことができる環境も、子どもたちが自分に向き合うことができる大切な要素です。学校でも学習面や生活面で、生徒一人ひとりの状況をしっかり見とり、自分で考えることを大切にしながら、仲間と協働できる環境づくりを行います。自分にも周りにも「やさしさ」をもった生徒の育成に努めていきたいと考えております。

☆ 最後に

今回の調査の結果を参考にし、保護者のみなさまや地域の方々からご協力を得ながら、生きる力（確かな学力、豊かな人間性、健やかな体）を持った生徒を育てていきたいと考えております。今後とも本校教育活動へのご支援とご協力をお願い致します。